



発行所

興行寺教化部

福井県吉田郡永平寺町
電話 0776-64-2744
FAX 0776-64-2791

新田塚道場（支坊）
福井市新田塚2丁目46-26
電話 0776-26-1191
FAX 0776-26-7868

自然の驚異

台風二十一号の被害

「天災は忘れた頃にやってくる」と云われているが、久しく台風による被害は無かった福井ではあったが、昨秋十一月二十二日夜半の二十一号台風はすごい風であつた。被害状況を見ると永平寺町、特に上志比地区が多くの被害に遭つた。

興行寺でも本堂南側の破風の白壁が崩れ、無残な姿になつた。（写真参照）

木鳥から守る為に金網が張ってあるので、下までずり落ちることはなく止まっている。

春、早々修理工事の予定である。高い所なので、足場を組んでからでないといふ事が出来ず、比較的高くつく。見積価格は八十万程度かかる。この修理代については火災保険に加入している



ので全額補償して頂ける。

二ヶ所目は鐘楼堂の周りに棚がしてあつたが、全て吹っ飛んでしまつた。元々、古くなつてはいたが四方共崩れた。今回はそのままにしておくことになつた。

三ヶ所目はイチヨウの大



きな枝が折れた。二本折れ、すごい状態であつた。さつそく業者に依頼、チェーンソーで切り始末した。

その他、由緒書の看板や山門の彫刻が落ちたり、あちこちで多くの被害を受けた。

当寺以外でも近くの神社に杉木が倒れ、瓦の破損や各地で木が倒れ、小屋のトタンやシャッターがこわれた所が多く、久しぶり台風の被害を被つた。

幸いにも福岡県のように水害によつて住宅や人が

失う被害ではなく、この程度で済んだことで、ありがたいことと云わなければならぬ。

大雪に見舞われる

「油断大敵」

今冬は予想に反して大雪に福井は見舞われた。

初雪は例年より早く十一月二十四日だつた。暮・正月とほとんど雪もなく過

せたが、一月中旬、下旬、二月上旬と、まとまつた雪が降り、二月七日には福井市内一四四センチに達した。

国道八号線は千五百台の車が立往生。当地より福井への道路も大混乱。二時間以上かかつてやつと着いたという。えちぜん鉄道も何日も不通。ガソリン不足、スーパーでの商品不到着など市民生活も脅かされた。

今回の雪は、五六豪雪以来のこと、三十七年ぶりの大雪である。

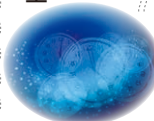
寺の境内も雪ですっぽりと埋まつている。



法話

ぼけるといふこと

本誓寺住職 松本 梶丸 先生



私の父は少しずつ痴呆が進んでいる。その父にもつと話かけねばと思いつつ、なかなか話し合う時間を持つとうとしない自分である。父は食堂と寝室の間を往復しながら、「へしねいなあ！」（食事が遅いということ）と、何度もつぶやく。三度の食事の前に必ずおむつを取り替えるのであるが、「おじいちゃん、おむつを替えるよ」と家内が言うと、実に明るい声で「ハーイ」と返事をする。時折、粗相をしたときは「すまんあ」と

言つて、いかにも申し訳なさそうな顔をする。さながら幼児のごとくである。私にはそういう素直さが微塵もない。そういう父を見てみると、家内も腹の立てようがないらしい。

先日、ある老人ホームでお話しするご縁をいただいた。話を始める前、事務長さんが「このホームにいるお年寄りの半分は痴呆で、半分の人はほとんど耳が不自由です」と言われた。事実はそうなのかもしれない。しかし、その人

庭用除雪機では間合ず、ブルにて除雪を行つた。桜の木も枝も折れた様子。改めて自然の恐ろしさを感じた。自然を通して何を私たちに学ぶやいているのでしようか。

もう一輪の花

仏教の開祖お釈迦さまは、今から二千五百年ほど前の、四月八日、現在のネパール・ルンビニで、お生まれになりました。お釈迦さまはその生涯を布教に捧げました。相手に応じ、機に臨んで、一番びつたりの教えを説かれたと言います。お釈迦さまがある日、説法の場に立つたとき、一輪の花が風に舞つてお釈迦さまの

手の中に納まりました。お釈迦さまは、黙つてそれを見つめました。弟子の魔訶迦葉だけが、その意味を理解し微笑まれました。お釈迦さまは「今、私の悟りの心を魔訶迦葉に渡そう」と申されて、ここに仏法が伝わったという逸話があります。一輪の花には真理がいっぱい詰まっています。咲いた花は、いつか散るといふ「無常」の真理、一輪の花を咲くまでには、水や日

たちは私のつたない話を目を輝かせて聞いてくれた。話を聞いていくうちに、私はそれらのお年寄りの顔が、等しく仏さまのようには思えてきたのである。「痴呆というのは、理性の痴呆であつて、生命の痴呆ではありません」といわれたある先生の言葉が思い出された。痴呆になつて、訳の分からないことをしゃべる老人の言葉を、アイヌの人たちは「神用語」と呼ぶそうである。

「私の親は神の言葉を使い始めた」と。

早くから「痴呆症」に取り組んでこられた京都・堀川病院の早川一光先生は、痴呆について次のようにおっしゃつておられる。「ぼけるといふこと

光といった沢山の「縁」があつて初めて咲くという「無我」の真理。お釈迦さまはそれを黙つて示されたのでした。

何より、花は無条件に美しいものです。純粹な心で花を見つめれば自然と微笑みがこぼれてきます。「咲」という字には「わらう」という意味もあります。花はいつでも私たちに微笑みかけてくれています。でも、私たちは花に微笑む余裕を失つてはいないでしょうか？何より、あなたの生んだもう一輪の花、お子様にはどうでしょう？一輪の花が咲いている、そのことをあたりまえとしないで、そこにあらわれた真理を、その不思議さを受け止めてしっかりといきたいものです。

は、自分のことしか考えられなくなつたということだ。いわゆる物忘れをするとか、とんちんかんことを言うのはぼけではない。そして、自分のことしか考えられないということとは、生活に感動も感謝もないということだ。生活に感動も感謝もなくなつた時、人間はぼけるのだ」と。とすれば「痴呆症」はなにも老人の問題ではない。生きるこの本質としてのよりどころを失っている人間は、みんなぼけているのかもしれない。今、日本には健康そのものの痴呆症患者が溢れている。悲しくも確かな現実である。（生命の見える時 一期一会） 中日新聞社



初参式のご案内

お子さまの初参り
5月27日(日)
午前11時
お越し下さい
降誕会の法座あります。

暮しの中の、お釈迦様ゆかりの日

四月八日 花祭り(誕生会)
お釈迦様の誕生日
十二月八日 成道会
お釈迦様がお悟りを開いた日
二月十五日 涅槃会
お釈迦様の御命日
その他、お彼岸、お盆などお馴染みの仏教行事があります。

北陸布教の道 (六)

興行寺の成立



するならば、年齢的には若過ぎる。

頼円に引き続き、純如三男の玄真周覚が越前へ下ってきた。一説によると、周覚十五歳の応永十三(一四〇六)年、吉田郡志比庄内下郷大谷(現永平寺町)に寓居し、同十八年に同庄上郷荒川へ移り、そこに道場を建立したという(同寺蔵「由緒書」大正年間成立、『越前集成』)。なお越前下向時に、源信作阿弥陀如来像等を奉じてきたといひ、応永十八(一四一一)年には巧如より華(花)蔵閣の号をいただいたともいふ。源信作のものとする、天台浄土教的な木仏伝承であり、閨号がこの時代における隠居号であると



下向当初は下郷大谷の村堂などに「寓居」していたとみる方が、蓋然性が高いものと推測される。

全国仏教壮年東北大会に参加して

荒川興行寺 仏教壮年会 山田 勝人

福井教区参拝団(十九名)の一員として、去る九月二日宮城県仙台市に於いて、第二十二回全国仏教壮年東北大会が開催され出席いたしました。

今回の大会は、会員数の少ない東北での開催でしたので、千三百余名の参加者でした。ややこじんまりとした感でしたが、仙台市民会館の収容人員満席の中、盛大で、厳かな式典が挙行されました。過去に福井、神戸、名古屋大会に参加いたしました。ご門主様のご臨席の下、

村の「勤農」をつかさどる村堂ならば、天台系の阿弥陀如来像があっても、さほど不思議ではない。

興行寺一族の繁茂

周覚の長男永存は石田西光寺(鯖江市)を創建し、長女・次男は時衆となつてゐる。越前時宗の(坂井市)は、越前時宗の拠点寺院として著名である。次女は照護寺良空の妻となつてゐる。照護寺(福井市)は六角堂とも称され、代々越前守護代の甲斐一族が住持しており、天台浄土系寺院の可能性が伺われる。三女は、存如の弟で元山門の僧侶だった宣祐如乗へ嫁ぎ、加賀二保本和泉寺(金沢市)に住した。四女は、横越証誠寺を頼つて越前へ下つてゐた毫撰寺善智へ嫁ぎ、三男は本寺の興行寺を継ぎ、四男は平泉寺に入り(後の

富山県高岡市厳照寺)、五男は守護斯波氏に属し、六男は善智の養子となり、やがて三門徒の一派である証誠寺住持となつてゐる。

周覚系子孫の諸問題

周覚の子女が各地の各宗各派寺院入寺していることは明らかであるが、そのことによつて、それら入寺先を本願寺の元へ帰依させたといふ、確たる徴証はない。むしろ先行していた時衆・三門徒各派などの諸寺からもらい受けられてゐるというのが、この時期における実態であつたと思われる。この血縁関係が生かされるのは、次代を待たなければならぬ。

し、同寺の次代住持は『日野一流系図』には記されていない。永存の長男である照護寺連真の場合、「始越前国石田住、又桂島住、又六角住、又中島住、又賀州砂粉坂居住、又岡崎住、又越中法輪寺住、又松寺住、於彼里卒」と各地を転住だったからなのであるのか。確かにその面も否定はできないが、確たる門徒団が存在せず、寺基も不安定で、それゆゑの容易な転住と見たほうが自然である。福井市成福寺の「由緒略記」には、「玄真、法流ヲ天台ニ酌ミ、五代目乗玄マデ代々天台ノ教ヘヲ遵法」すと記されている。天台の教を遵法し、真宗に酌むとは記していない点に留意したい。

むすびにかえて

頼円・周覚は、本願寺一族として初めて越前の地で生活を始めた。その子や孫たちも多数が北陸各地に展開していった。それは本願寺の歴史に今まで見られなかった新たな展開である。しかし四代善如・五代純如・六代巧如のころの本願寺には、いまだ伝道教化の方策は定まっていなかったものと推測される。もしこの種の方策があつたのなら、室町期の本願寺の教線は、京都・丹波・丹後・近江

識も、いまだ未成熟だった可能性はある。血縁と法縁とは別との認識でもあろう。少なくとも初めて地方に進出して、本願寺流の法義を弘めようとするならば、しかるべき聖教や法物が頼円・周覚およびその子どもたちに付されていてもよさそうなものである。それら、この他は他の物と違い、伝道教化に際して最も重要なからである。思いつきでも、庶子一族寺院の由緒書に記載され、戦国期の一向一揆の時に消失したかと、近世のしかるべき災害の時に消失したとか、記されていても良いはずなのに、その例は見受けられない。

史料偏在論的な特異性は、超勝寺や興行寺だけでなく、おおよそ一族子寺院に共通して見られる特徴である。しかしその一方で、非血縁寺院である和光本願寺は、七代存如より『三帖和讃』や『破邪顕正鈔』を授与しており、宝徳三(一四五二)年六月の「和光本願寺門流木田庄内橘屋善坊」へ授与された絵像本尊も現存している。存如の授与になる聖教・法物類は、他にも河崎専稱寺(加賀市)や吉藤専光寺(金沢市)・木越光徳寺(現七尾市)などの非血縁有力寺院に散見される。本願寺存如への帰依は、一族庶子寺院よりも、これら非血縁寺院の方が先行した、ということなのであろう。

住職雑記

真宗合同調査調査報告書より

○昨春四月、隣寺の善教寺の前住職であり、中学校で三年間担任をもつてもらった高倉淳心先生が九十一才で亡くなった。昨夏、上志比中学校二十八年度卒業の同窓会があり、当寺に集合、善教寺さんへお参りした。読経のもと参加者十五名が焼香し、ありし日を忍んだ。

○次男雅文が養子入寺した東京の西教寺住職、村松賢英師が急に亡くなった。七十一才であった。雅文も今まで住職に頼つておつたが、急に住職になり、大変いそがしくなり、当寺の報恩講も、今年のお正月も帰省できなかった。孫の顔も見られず、さみしいことである。各方面で活躍され、立派なお父さんであった。皆んなから、おしまれた。急なことで、諸行無常のことわりを改めて感じる。

○今冬はすごい雪に見舞われた。最近では雪が少なくなつており、特にここ二、三年は少なかった。

今年も大したことはないだろうとの予想でしたが、さにあらず、しつかりと降られてしまった。

車での移動が大変だった。頼りにしていた昨年七月、開通の中部縦貫道も不通になった。

連盟旗の入場、勤行、連盟綱領唱和等式次第にのっとり肅々と執り行われました。今回は、結成五十年以上の単位仏壮十七団体が表彰されました。

記念講演(法話)は、宮城組専能寺住職足利一之教使により「たのむより先に」の講題でした。ご自身のお寺も東日本大震災で海岸から約二kmはなれた宮城野区に建立されていますが、一階部分の本堂は見る影も無く被害を被りました。震災後から本年七月までの間に約三万人余りの信徒さ

んのボランティア活動により、お寺も無事再興されました。この間の出来事を「慈悲」のこころを持って接していたと内容でした。又記念行事(落語)は桂門下の桂小枝、桂三金お二人の落語で、参加者全員の大笑いを誘ひ、しようしよ湿っぽい雰囲気と和ませてくれました。

閉会式は、随行長、当大会の実行委員会の挨拶の後、決意表明「ともにいのち輝く」

友の笑顔」の朗読がありました。次期開催教区(備後)の、三年後には岡山でお会いしましょうとの挨拶があり、恩徳讃の唱和で無事終了する事ができました。

翌三日はオプショナルツアーで二班に分かれて、被災地の復興の様子、松島湾遊覧、専能寺、称法寺の参拝を行い、東日本大震災の生々しい跡形をたどりました。

心一杯に仙台のお土産をもつて、仙台空港から小松空港までの帰路に着きました。台風の影響を心配しておりましたが、二日は傘も要らないほどの小雨、三日は台風一過のぴんからのさわやかな日とで思い出に残る大会でした。



は、随行長、当大会の実行委員会の挨拶の後、決意表明「ともにいのち輝く」

友の笑顔」の朗読がありました。次期開催教区(備後)の、三年後には岡山でお会いしましょうとの挨拶があり、恩徳讃の唱和で無事終了する事ができました。

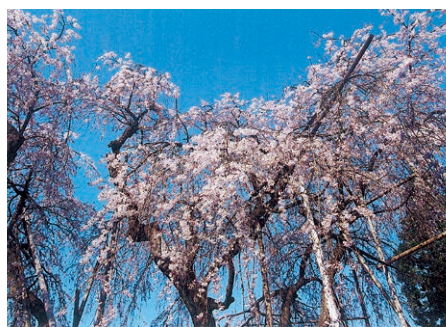
翌三日はオプショナルツアーで二班に分かれて、被災地の復興の様子、松島湾遊覧、専能寺、称法寺の参拝を行い、東日本大震災の生々しい跡形をたどりました。

心一杯に仙台のお土産をもつて、仙台空港から小松空港までの帰路に着きました。台風の影響を心配しておりましたが、二日は傘も要らないほどの小雨、三日は台風一過のぴんからのさわやかな日とで思い出に残る大会でした。

しだれ桜コンサート シャンソン

今春は四月十五日(日)

昨春は「幻のしだれ桜」としてFBC TVで生放送で紹介して頂き、県内各地



より多くの方が訪れて下さいました。

今春も又、美しい花を咲かせることでしょうか。十日間位庭園開放しますので、どうぞご来園下さい。

今年は「しだれ桜コンサート」は、四月十五日(日)午前十一時より、京都市在住の大東幸恵さんと高橋京子さんのお二人を迎えてシャンソンを歌っていただきます。大東さんは永平寺町柝原の出身、平成二十七年八月、永平寺町の灯籠流しの夕べに出演された。仏教壮年会のご協力

報 恩 感 謝

県会議員 清水 智 信



私は福井県福井市に生まれ三歳から新田塚幼稚園に通いました。園児の頃思い出は楽しかった思い出ばかりありませんが、人見知りでもいつも幼なじみの女の子に手をひかれ、どこにでもついて行ってもらっていた、おとなしい子どもだった気がします。

先生方や私自身もまさかプロボクサーの道に進むなんて夢にも思っていなかったと思います。しかし自分が今こうして生かされているのも新田塚幼稚園や北陸高校での「家族やご先祖様を大切にしよう。人のためにがんばりま

を得てコンサートも六回目を迎えた。

二十四年第一回は源さんの演奏。二十五年は金沢在住、荒井康之さんのハーブの演奏と片瀬区の一豊年ばやし銭太鼓。二十六年は東忠孝さんのシンセサイザーの演奏と下合月の「いわか会」の寸劇、二十七年は勝山のハーモニカグループと源さんの演奏。二十八年は大遠忌法要の為休みました。二十九年は三回目の源さんの演奏。六回目、来る四月十五日はシャンソンと桜がどのようにマッシュするでしょうか、ご期待下さい。さくらの開花は年によって早かったり、遅くなったりで十五日少々散っているかも知れません。昨年は丁度見頃でした。

得 度

若坊守が昨年六月、本願寺の西山別院得度習礼所で十一日間、習礼を行い僧侶の資格を得た。本人は「資格が欲しいというより、勤式作法など寺の坊主としての基本を勉強したく得度をしました。将来は少しでもお手伝い出来ればよいなあと考えています」と。

右側もアルミ防雨壁

昨年七月、今まで本堂正面左側のみしか出来ていなかった風雪除のアルミ製防雨壁が右側も出来上った。風の強い時、雨や雪が吹き込んで、せつかく立派な木材で廊下板を張っていたいたのがぬれてしまい腐

お 便 り

年の瀬もせまり毎日お忙しいことと遠察しており。皆様方お変わりなくお過ごしのことと思います。月日の過ぎるは早いものです。正月も間近となってきました。今年は特に寒波が強いようですが、

りも早く来ることだし、これで保守することが出来る。冬は従来のように雪囲いテントもなくなって、冬は少々花誘ふみ寺の庭に佇めば古木の桜枝一つ咲きたり恐竜の里歴史を偲ぶ水の旅九頭竜川 四季野原 山王 荒川 幸出

佐々木惣二郎	88才	福井
多田 正男	70才	福井
荒川 秋彦	58才	丸岡
小林八重子	84才	勝山
多田さち子	79才	郡区
亀井ヨシ子	77才	福井
一嶋 保雄	63才	松岡
加藤きよ子	102才	驚塚
飯野 正一	90才	愛知果
小倉 平	90才	驚塚
大沢たまゑ	88才	片瀬
中村 政博	90才	丸岡
柳原 嘉幸	87才	光明寺
坪田 敏雄	83才	田端
花山久太郎	103才	勝山
山口 寛	76才	勝山
松山 房男	81才	福井
婦山三重子	83才	蔵生
西脇 吉胤	75才	新保
中村 稔	94才	勝山
山田 照夫	68才	藤巻
山田 武司	85才	勝山
山田 絹児	69才	藤巻
宮地 俊栄	88才	福井
堂前 和子	95才	勝山
三田 一義	97才	針原
駒田あさの	97才	光明寺
荒川三斗米	89才	山王
丸山 正夫	81才	勝山
飯野 信子	84才	勝山

亡くなられた方々

(敬称略)

た世界王者という夢が手から抜けおちた時「ああやはり世界王者になるなんて特別な人間しか無理なんだ」という虚無感、あきらめの気持ちになつていました。こんな気持ちのまま故郷の福井に戻ると、たくさんの地元の人々が私を応援してくれていて、負けを悲しむ次の試合を期待してくれていました。私はこんなにも自分のことを応援してくれている人たちがいることを知り、応援してくれる人の期待に応えたい、自分ががんばることに、自分ががんばる元気になるなら、必ず世界のベルトを故郷に持つて帰ってくるという新しいモチベーションが生まりました。それからトレニングはこれまでの限界が百だったものが百五十までできるようになり、人間は自分のためだけにでなく人のため、何

かのために無限の力を発揮することを実感しました。内藤戦から四年、最後の世界戦のチャンスがやってきました。相手は二階級制覇王者メキシコのウーゴカサレス。下馬評では圧倒的不利でしたが私は「いろんな人の思いを背負っているんだ。だから今回はどんな苦境に立たされても絶対に諦めない」という精神で挑みました。試合は前半は私がリードしていましたが、中盤強力なパンチをもらい眼底骨折しKO負け寸前になりました。しかし、そこでふんばり自分以上の力を発揮し試合を盛り返せたのは、ご先祖様やいろんな方たちが私に力をくれたからだと思っています。そして力を貸していただけたのも報恩感謝の気持ち忘れなかつたからだと思っています。

世界王者になりボクシングを引退後は故郷福井に戻り、現在、県議会議員として活動していますが、これからは報恩感謝の気持ちを忘れず真の人間の幸福を目指し行動していきたいと思っています。

本願寺保育連盟より出版されている月刊誌「保育資料」に昨年、九月号に掲載されたものです。

清水智信氏は新田塚幼稚園第十八回卒園生であり、北陸高校ではボクシング部に所属。大学卒業後、金子ボクシングジムよりプロデビュー。二〇〇八年四月、第五十一代目日本フライ級王者、二〇一一年八月、第二十代WBA世界スーパーフライ級王者となる。現在、ボクシングスタジオをオープン。福井県議会議員として活躍されている。

永代経懇志 (信徒)

朝井章一殿	母の	竹原
反保昌博殿	母の	竹原
酒井清憲殿	父の	竹原
酒井清憲殿	母の	竹原
朝日秀憲殿	父の	竹原

特別永代経

中村長俊殿	祖父	片瀬
33回忌		

年長児保護者の声

(卒園旅行を終えて)

「あたりまえではない」

三年間の成長を目の前でみせてもらいましたが、こうやって息子の社会的な広がりが増えていっていることに、とても感動と安心しました。二度ともしどけない毎日が、どれだけ大切なものかを節目に感じさせてもらえたことに、とても感謝しました。お話の中であたりまえではないんだよ、という言葉が耳にしますが、新田塚幼稚園に

「響き」

年少の春の遠足のときは初めて何う心のお話に正直驚きました。先生方が、ご自身の中に出てくるいろいろな心に向き合い、素直にお話し下さること、その場に立ち合わせて頂ける縁をありがたく、先生方が新田塚幼稚園で出会われた原点の部分を変えてふり返りながらつぶやいて下さったことが、私の心にも響きました。

「一体感」

バスの中や西本願寺など、先生と子ども達の一体感にはっとしました。はしゃいでいた子どもも先生が手を合わせたれば背筋を伸ばして目をつむったり、みんなが気持ちを一つにしていることが、様々な場面で感じとれました。

土曜学校生作文

「何のために生まれてきたの」

日の出小学校三年

乾 達矢

ぼくは、二年生の時に「人間は何のために生まれてくるんだろう。」と思い、父や母、学校の先生たちに聞いてみました。なぜなら、それが分からないと生きている意味がないと思ったからです。みんなからは、「子そんをのこすため」とか「世の中のよくに立つため」とか「ゆめをかなえるため」とか、いろいろ答えてもらいました。それでもぼくは、心がいや

「ありがとう」

今日親らん様にどんなことをありがたうと言ったの？と聞いたら、「この世に生まれさせてくれてありがとう」と言っていました。とてもびっくりしました。私が思っている以上に心が育って、素直な心を新田塚幼稚園で学んでくれているなと嬉しく思いました。

「せいてん」四十八年歴

移動バスでの先生方と接する事が出来て楽しかったです。色々なお話を拝聴し、色々考えさせられました。園児たちがつづやうの事、大切さを教えられる先生方、自らつづやうの御苦労、自分の身に置きかえる、ああ、自分は出来ないなあと思ってしまう。新田塚幼稚園に在る六年の母親で

もまだまだなんですね。サークル会報誌にも書いたんですが、「せいてん」四十八年歴。せいてんを閉じた後に、ペラペラと開いたら、Yに「勝手に開いたらあかんよ。」と注意されました。反省です。四十八年間、園児たちが大切に尊いものとしてせいてんを受け継いでいることにハッと気付かされました。伝統の卒園旅行。有意義に過ごさせて頂き、本当に有難うございました。

「たくさんありがと」

大好きなお友達とも楽しくふれあつて、ちゃんと譲り合いの心も持てるようになってのも今見られたいし、お参りも頑張つてたし、阿弥陀様にたくさんありがとを伝えていて、新田塚でなければ、阿弥陀様がいつも心の中にいてくれる事、なにに對してもありがとこの気持ち忘れ

ない事、親子共々たくさん事を学ばせてもらえてるんだな〜と思いました。

「積み重ね」

西本願寺を参拝させて頂けたことは、本当にありがたく、貴重な経験でした。恥ずかしながら私は途中で「足がしびれてしまっただなあ。」などと考えていた時間がありました。しかし周りで子どもたちが集まると、せいてんを唱えている姿を見て、何事も日々の積み重ねが大切であると感じました。とても小さなことですが、我が子の姿から、何かを気づかせて頂けたことは、親子で過ごさせて頂けたからなんだと、大変ありがたかったです。

「心満たされた一日」

お互いがお互いを独占することができ、たくさん甘えに出来る事ができました。

した。先生方のおかげで普段できないことをたくさん一緒にすることができ心満たされた一日になりました。ありがとございました。

「命のリレー」

「親鸞さまに何てありがたうと伝えたの？」と娘に聞いた。娘は「ママに命をくれてありがたうと言った。」と言っていました。園長先生が前にお話して下さった命のリレーの事を覚えていたのかなと思いました。

「お伝えしに」

ただお友達や先生方と遊びに行くのではなく、親鸞様や阿弥陀様に感謝の気持ちをお伝えしに何うといたただいて、娘もしっかりと心に残ったと思います。お参りの間、子供達が「せいてん」を唱えている姿を見て、みんな一生うと思えました。

懸命気持ちがこもっていて、入園させていたから毎日の積み重ねのお陰で立派なお参りが出来ているのだなと思いました。

「感謝」

お姉ちゃんはいま我慢と言いつつ聞かせている自分が嫌になる時があります。ダメだなあと反省する毎日です。いつも我慢ばかりさせてごめんね。ママはあなたの事が大好きなんだよ、どんな時も一番に側にいるよ、と伝える事が出来ました。我が子との距離が縮まったように感じています。そんなきっかけを頂く事ができた卒園旅行に参加できた事に感謝しています。

「感謝」

卒園旅行では何に感謝しているの？と尋ねると「給食を食べられてうれし」「家族がいてうれし」「Aくん(弟)がいてうれし」と答えていました。京都西本願寺でお参りしている様子やお友達と遊んでいるところを見て、幼稚園の三年間でこれほど成長したのかと嬉しく思いました。また、バスの中では先生方にみずからの体験を交えた大変貴重なお話を聞かせていただきました。新田塚幼稚園でとても良い先生方やお友達に巡り合えたことを感謝いたします。

「導かれているような」

京都の西本願寺に行かせて頂きましたが、私の祖父の遺骨を納骨したところでもあり、祖父に導かれているようなそんな気持ちになりました。